

(22) えだまめ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 茎疫病 <i>Phytophthora sojae</i>	1. 連作を避ける。 2. 圃場の排水を良好にする。 3. 罹病植物残さは圃場外に持ち出し、処分する。	発 生 前 か ら	40	レ ー バ ス フ ロ ア ブ ル
2 紫斑病 <i>Cercospora kikuchii</i>	1. 無病種子を用いる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ゲッター水和剤は莢汚損症にも登録がある。	播 種 前 (塗 沫)	M3	キ ヒ ゲ ン R - 2 フ ロ ア ブ ル
		発 病 前	1 11 M1 10・1 10・1	ベ ン レ ー ト 水 和 剤 フ ァ ン タ ジ ス タ 顆 粒 水 和 剤 ク ミ ガ ー ド S C (混) ゲ ッ タ ー 水 和 剤 (混) ニ マ イ バ ー 水 和 剤
3 葉焼病 <i>Xanthomonas axonopodis</i> pv. <i>glycines</i>	1. 健全株から採取した種子を用いる。 2. 連作を避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. バリダシン液剤5は、トマト、きく（秀芳の力など）には薬害を生じるおそれがあるので注意する。	発 病 前	U18	バ リ ダ シ ン 液 剤 5
4 菌核病	1. 多発圃場では収穫後湛水をして、土壌中の菌核を死滅させる。 2. 連作を避ける。 3. 被害株は除去し、処分する。	発 病 初 期	11	フ ァ ン タ ジ ス タ 顆 粒 水 和 剤
5 斑点細菌病 <i>Pseudomonas savastanoi</i> pv. <i>glycinea</i>	1. 健全株から採取した種子を用いる。 2. 連作を避ける。 3. 排水をよくして株間湿度を下げる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 野菜類の斑点細菌病でZボルドーの登録がある。			
6 ハスモンヨトウ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. プレオフロアブルはハモグリバエ類にも登録がある。	若 齢 幼 虫 期	3A 3A 3A 6 15 15 22A 22A 22B 28 28 28 28 28 28 30 UN	ト レ ボ ン 乳 剤 ト レ ボ ン E W ト レ ボ ン 粉 剤 D L ア フ ァ ー ム 乳 剤 ア タ ブ ロ ン 乳 剤 ノ ー モ ル ト 乳 剤 ト ル ネ ー ド エ ー ス D F フ ァ イ ン ト リ ム D F ア ク セ ル フ ロ ア ブ ル ヨ ー バ ル フ ロ ア ブ ル フ ェ ニ ッ ク ス 顆 粒 水 和 剤 フ ェ ニ ッ ク ス フ ロ ア ブ ル プ レ バ ソ ン フ ロ ア ブ ル 5 ベ ネ ビ ア O D ブ ロ フ レ ア S C プ レ オ フ ロ ア ブ ル
7 シロイチモジマダラメイガ	1. 多肥栽培、密植栽培を避ける。	若 莢 期 ～ 子 実 肥 大 初 期	3A	ト レ ボ ン 乳 剤
8 オオタバコガ	1. 幼虫を見つけたら取り除く	発 生 初 期	30	グ レ ー シ ア 乳 剤
9 マメシНКイガ	1. 連作を避ける。	発 生 初 期	28 28 30 30	ヨ ー バ ル フ ロ ア ブ ル ベ ネ ビ ア O D グ レ ー シ ア 乳 剤 ブ ロ フ レ ア S C

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

えだまめ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
10 カメムシ類	1. 水田との輪作を行い、密度の低下を図る。 2. 圃場内や周辺の雑草を防除する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. スミチオン乳剤はマメシンクイガ、ダイズサヤタマバエにも登録がある。 2. アグロスリン乳剤はフタスジヒメハムシにも登録がある。 3. トレボン乳剤、トレボン粉剤DLはフタスジヒメハムシ、ダイズサヤタマバエにも登録がある。	着莢初期 ～子実肥大初期	1B 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 4C	スミチオン乳剤 アグロスリン乳剤 トレボン乳剤 トレボンEW トレボン粉剤DL ダントツ水溶剤 アルパリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 エクシードフロアブル
11 アブラムシ類	1. 周辺雑草を防除する。 2. 圃場周辺にシルバーテープをはる。 3. シルバーマルチをする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. モスピラン顆粒水溶剤は、コナジラミ類にも登録がある。	播 種 時 定 植 時 発 生 初 期	4A 4A 4A 1B 4A 4A 4A 4A	アドマイヤー1粒剤 ダントツ粒剤 アドマイヤー1粒剤 マラソン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 アルパリン顆粒水溶剤
12 フタスジヒメハムシ	1. 連作を避ける。 2. 越冬場所となる圃場周辺の落葉を除去する。	播 種 時 発 生 初 期	4A 4A 3A 30 30	アルパリン粒剤 スタークル粒剤 アデイオン乳剤 プロフレアSC グレーシア乳剤
13 コガネムシ類	1. 幼虫の生息密度の高い圃場を秋耕する。 2. 連作圃場では発生に注意する。 3. 生わら等未成熟堆肥等の多用を避ける。	成虫多飛来期 (7月中旬 ～8月上旬)	28	ヨールフロアブル
14 ハダニ類	1. 圃場内や周辺の雑草は作付前に防除する。 2. 収穫残さは、速やかに処分する。	発 生 初 期	10A 13 21A	ニッソラン水和剤 コテツフロアブル ダニトロンフロアブル
15 ハモグリバエ類	1. 被害植物や雑草は除去後に土中に埋設するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 2. 周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。	発 生 初 期	30	グレーシア乳剤
16 ダイズサヤタマバエ	1. 過度の密植は避ける。	発 生 初 期	4A	スタークル液剤10
17 タネバエ	1. 有機物の多用を避ける。 2. 早まきを避ける。 3. 排水を良好にする。	播 種 前 (塗 沫)	—	キヒゲンR-2フロアブル
18 ネキリムシ類	1. 圃場内や周辺雑草を除去する。 2. 株に被害があったときは、株元の土を浅く掘り起こして幼虫を捕殺する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. カルホスは使用回数に注意する。	播 種 時 定 植 時 播種時～ 本葉2葉期 発 生 初 期	1B 1B 1B 1B 1B 3A 22B	カルホス微粒剤F カルホス粉剤 カルホス微粒剤F カルホス粉剤 カルホス粉剤 ネキリエースK カルモットA ガードベイト アクセルベイト

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する